

# 組織目標評価報告書（平成23年度）

部局名：大学院医歯薬学総合研究科（薬学系）

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>①-1 目標</b> 1)平成23年度から認可された博士後期課程創薬生命科学専攻の分子イメージング教育コースを開設する。 2)平成23年度に予定されている博士前期課程の成績評価基準を含む初めてとなる修士論文発表会に関する実施要綱等についての検討を行い、実施する。 3)平成23年度の博士前期課程の学年進行の終了に伴い、平成24年度の新カリキュラム策定のための、検証を行い、改善案を検討する。	1)平成23年度から認可された博士後期課程創薬生命科学専攻の分子イメージング教育コースを開設した。 2)平成23年度に予定されている博士前期課程の成績評価基準を含む初めてとなる修士論文発表会に関する実施要綱等についての検討を行い、実施した。 <b>論文審査を厳格化するために、法整備や意識改善のためのFDフォーラムを実施した。</b> 3)平成23年度の博士前期課程の学年進行の終了に伴い、平成24年度の新カリキュラム策定のための、検証を行い、改善案を検討した。
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>②-1 目標</b> 1)薬学部棟耐震改修終了を受け、新施設での共同機器室等を整備し学生教員のための研究環境を整える。 2)価値の高い研究業績を挙げそれをホームページ等で広報する。 3)科研費等の外部資金獲得に努める。 4)研究遂行におけるコンプライアンスを遵守する。 5)他の医療系(歯学系・医学系)との研究交流をさらに活性化し、新たな研究シーズの発見とその臨床応用に向けた取り組みを開始する。 6)特別経費プロジェクト「難治性感染症を標的とした創薬研究教育推進事業」を一層発展させる。 7)おかもやまメディカルイノベーションOMICにおける分子イメージング技術による創薬研究を推進し、医歯薬の連携を強化しつつ、理研との連携も加えて、大学院教育・研究の充実を図る。 8)インドにおける新興・再興感染症拠点を基盤として、感染症研究の進展を図る。 9)大型研究資金獲得のための方策を他の医療系(歯学系・医学系)と連携し協議する。	1)薬学部棟耐震改修終了を受け、新施設での共同機器室等を整備し学生教員のための研究環境を整えた。 2)価値の高い研究業績を挙げそれをホームページ等で広報した。 3)科研費等の外部資金獲得に努めるため、 <b>若手教員の申請書は、執行部で添削を行った。</b> 4)研究遂行におけるコンプライアンスを遵守するため、 <b>FDフォーラムで周知・議論した。</b> 5)他の医療系(歯学系・医学系)との研究交流をさらに活性化し、新たな研究シーズの発見とその臨床応用に向けた取り組みを開始した。 <b>全国的にも始めてとなる教育・研究分野として「救急薬学」分野を発足させた。</b> 6)特別経費プロジェクト「難治性感染症を標的とした創薬研究教育推進事業」を一層発展させた。 7)おかもやまメディカルイノベーションOMICにおける分子イメージング技術による創薬研究を推進し、医歯薬の連携を強化しつつ、理研との連携も加えて、大学院教育・研究の充実を図った。 8)インドにおける新興・再興感染症拠点を基盤として、感染症研究の進展を図った。 9)大型研究資金獲得のための方策を他の医療系(歯学系・医学系)と連携し協議した。
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>③-1 目標</b> 1)薬剤師や一般人を対象に薬学公開講座を開催し、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上に努める。 2)一般人を対象に薬学公開講演会を開催し、薬学に関する社会の認識を高める。 3)企業等との共同研究等の産学官連携活動を展開し、社会の要請に応える。 4)行政機関等から教員へ要請される各種委員の就任を支援する。 5)薬剤師会等と連携し、薬剤師の生涯学習に貢献する。	1)薬剤師や一般人を対象に薬学公開講座を開催し、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上に努めた。 2)一般人を対象に薬学公開講演会を開催し、薬学に関する社会の認識を高めた。 3)企業等との共同研究等の産学官連携活動を展開し、社会の要請に応えた。 4)行政機関等から教員へ要請される各種委員の就任を支援した。 5)薬剤師会等と連携し、薬剤師の生涯学習に貢献した。
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>【総括記述欄】</b>	
平成23年度は、新棟の増設を含む薬学部本棟の耐震改修が終了するとともに、新学部長の指揮下、新執行部体制で精力的に学部改革を実行した。この形而上の上下を問わない変容は、教育・研究・運営の全般に及び、その成果は、まさに、 <b>新生薬学部の開始年</b> にふさわしいものであったと考える。	